

産業廃棄物処理計画書

平成 26 年 6 月 23 日

鳥取県 事務所長 様

提出者

住 所 鳥取県岩美郡岩美町大字新井550番地
氏 名 福上工業株式会社
代表取締役 福石 幸生

電話番号 0857-73-0513

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画書を作成したので、提出します。

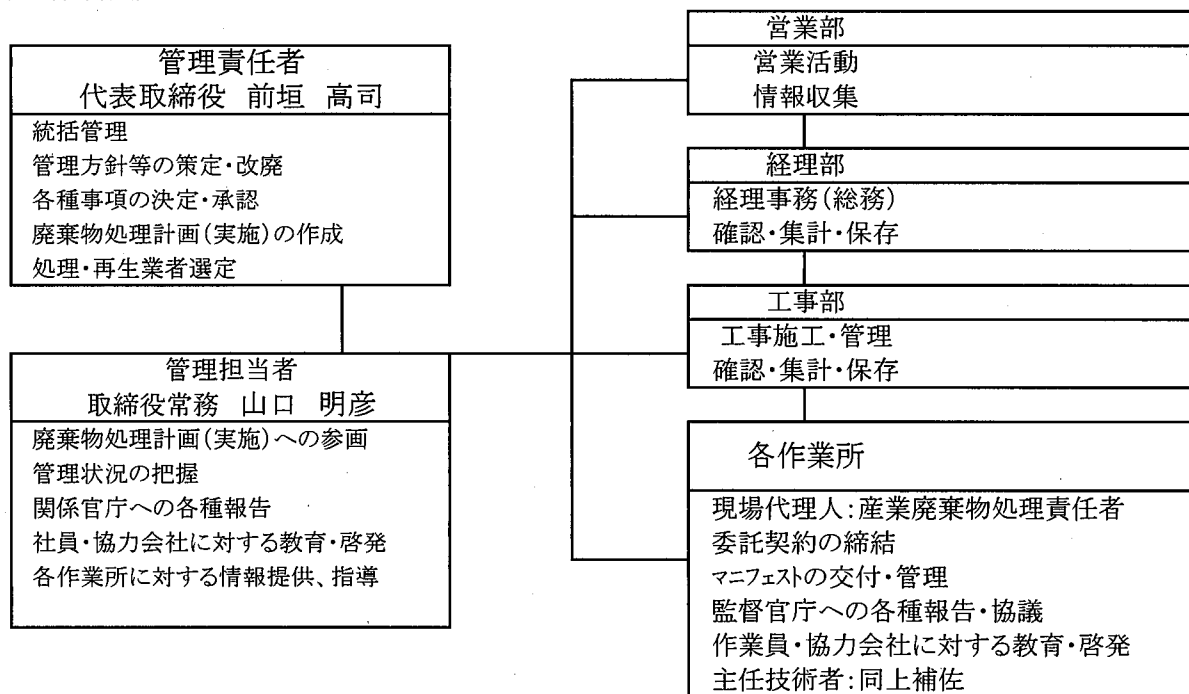
事業場の名称	福上工業株式会社
事業場の所在地	鳥取県岩美郡岩美町大字新井550番地
計 画 期 間	平成 26年 4月 1日 から 平成 27年 3月 31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	建設業 [0911]
② 事業の規模	450,000千円
③ 従業員数	23人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	各現場ごとに全数中間処理施設に処理を委託する 分別を行い再生可能なものは再生処理施設に処理を委託する。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状 別紙(1)(2)のとおり	【前年度(25年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
(これまでに実施した取組) 主に受注工事工種により発生するため大幅な抑制は見込めない 分別し再生可能物は再生処理施設に委託し再資源化に努める その他 別紙(1),別紙(2)のとおり			
② 計画 別紙(1)(2)のとおり	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
(今後実施する予定の取組) 分別を徹底し再資源化に努める その他、再使用・再利用できるものは積極的に活用する(紙・木材など) その他 別紙(1),別紙(2)のとおり			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状 別紙のとおり	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別収集を行う。特に再生可能なものはこれを徹底する。 その他 別紙(2)のとおり
② 計画 別紙のとおり	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 分別収集を行う。特に再生可能なものはこれを徹底する。 その他 別紙(2)のとおり

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度(25年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度(25年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	t
(これまでに実施した取組)			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋め立て処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(25年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入を行った 産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
別紙(1),別紙(2)のとおり			
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は 海洋投入を行う 産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙(1),別紙(2)のとおり			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【前年度(25年度)実績】			
① 現状 別紙(1)(2)のとおり	産業廃棄物の種類				
	全処理委託量		t		t
	優良認定処理業者への 産業廃棄物の量		t		t
	再生処理業者への 産業廃棄物の量		t		t
	認定熱回収業者への 産業廃棄物の量	—	t	—	t
	認定熱回収業者以外の の熱回収を行う業者への 産業廃棄物の量	—	t	—	t
	(これまでに実施した取組) 全処理委託している 再資源化できるものは当該処理施設に委託 別紙(1),別紙(2)のとおり				
② 計画 別紙(1)(2)のとおり	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	全処理委託量		t		t
	優良認定処理業者への 産業廃棄物の量		t		t
	再生処理業者への 産業廃棄物の量		t		t
	認定熱回収業者への 産業廃棄物の量	—	t	—	t
	認定熱回収業者以外の の熱回収を行う業者への 産業廃棄物の量	—	t	—	t
(今後実施する予定の取組) 全処理委託している 再資源化できるものは当該処理施設に委託し再資源化率を高める 別紙(1),別紙(2)のとおり					
※事務処理欄					

産業廃棄物の種類別処理の現状・具体的な取組み 発生抑制・分別・再生利用促進

別紙(2)

廃棄物の種類	現 状	実 施	計 画	備考・今後の見込み 具体的取組み	目 標
コンクリートから	再生利用(委託) ※公共工事においては指定 民間工事においても同様に実施 可能であれば、破砕のうえ現場内に埋戻・盛土材として(現場内減量化する)	再生利用(委託)率 100% 100%	再生化処理施設に委託 1 再資源化工場に直接搬入 2 中間処理施設に委託(破砕) 3 発注者と協議し可能であれば現場内減量化につとめる。	再生化処理施設に委託 再生砕石へ 破砕処理(再資源化施設引渡)	再生利用(委託)率 100% 100%
アスファルトから	再生利用(委託) ※公共工事においては指定 民間工事においても同様に実施	再生利用(委託)率 100%	再生化処理施設に委託 1 再資源化工場に直接搬入 2 中間処理施設に委託(破砕)	再生砕石,再生合材へ 破砕処理(後再資源化施設引渡)	再生利用(委託)率 100%
その他がれき類	中間処理(委託) がれき類、ガラス等は再生利用可能なものは分別し処理を委託する ガラス等以外、破砕のうえ現場内に埋戻・盛土材として(現場内減量化可能)	再生利用(委託)率 0%	中間処理施設に委託(破砕)	埋立(安定型)	再生利用(委託)率 20%
ガラス・陶磁器くず	種類によっては協議のうえ、破砕処理後現場内減量化可能	再生利用(委託)率 0%	1 ガラス等以外、破砕し現場内に埋戻・盛土材として利用(現場内減量化) 2 種類によっては、協議し可能であれば現場内減量化につとめる。		再生利用(委託)率 20%
金属くず	良質なものは分別し再生利用業者へ処分 薄板(看板など)、鉄線類(番線くずなど)は、再生委託業者 分別・引取できないものがある	再生利用(委託)率 70% 30%	1 リサイクル業者へ持込 分別を徹底し資源としてリサイクル業者へ持ち込む		再生利用(委託)率 80%
木くず	チップ用など中間処理業者へ委託。 草・立木枝など上記処理できないものもある。 仮設材(型枠資材)等は減少傾向:二次製品の使用	再生利用(委託)率 60%	1 中間処理施設に委託(破砕・再生化) 2 草は自主的な処分地の確保を行う。(果樹園草押えなどへ利用) 3 仮設杭・板材は、再利用を徹底し、各現場間での利用も行う		再生利用(委託)率 70% 80%
廃プラスチック類	委託処理 再生利用できないのが現状	発生抑制 10%減	1 出来るだけ現場内に持ち込まないようにする(製品納入等) 2 管材等寸法取りを有効に行い、残材の発生を抑える 3 管材等利用可能なものは、仮設・本設を含め徹底利用する	発生抑制	発生抑制 30%減
混合廃棄物	委託処理 分別が困難なもの・再生利用できないもの 出来るだけ分別する	廃棄仮設材など 発生抑制 15%増 廃棄仮設材など増	1 分別を徹底し発生量を抑制する 2 出来るだけ現場内に持ち込まないようにする(製品納入等)	発生抑制 -50%	発生抑制 -50%
廃せつこうボード類	委託処理 再生利用可能なもの(新材残など)は分別委託する	発生時適正処理	1 発生量の抑制。再生利用可能なもの(新材残など)は分別委託する。 2 必ず分別処理委託する。(他の混合廃棄物との分別)	発生時適正処理	発生時適正処理
汚泥	委託処理	発生時適正処理	委託処理	発生時適正処理	発生時適正処理
廃石綿類	委託処理 (特別管理産業廃棄物)	発生時適正処理	発生時は適正処理を行う	発生時適正処理	発生時適正処理

平成25年度の産業廃棄物発生量 年度集計表

別紙(1)

項目	総数量 t	特別管理廃棄物を除く	コンクリートから	アスファルトから	その他がれき類	ガラス・陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	汚泥	紙くず	木くず	繊維くず	石こうボード類	混合廃棄物	石綿含有産業廃棄物
25年度目標量	1,167.0	1,167.0	300.0	800.0	10.0	1.0	4.0	1.0	20.0	1.0	20.0	0.0	2.0	8.0	0.0
産業廃棄物発生量	1,196.4	1,194.9	237.8	733.3	0.0	0.2	35.9	7.5	20.5	112.1	112.1	0.0	10.9	36.7	1.5
中間処理(委託)	1,194.9	1,194.9	237.8	733.3	0.0	0.2	35.9	7.5	20.5	112.1	112.1	0.0	10.9	36.7	0.0
再生利用(委託)	978.6	978.6	237.8	733.3	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
最終処分	217.8	216.3	0.0	0.0	0.0	0.2	35.9	0.0	20.5	112.1	112.1	0.0	10.9	36.7	1.5
構成比率			19.9%	61.3%	0.0%	0.0%	3.0%	0.6%	1.7%	9.4%	0.0%	0.0%	0.9%	3.1%	0.1%
備考	中間処理他すべて外部委託 (自己処理なし)														
目標・実施増減	29 t	28 t	※請負工事の内容による変動が見られる												
再生利用率	82%	82%	100%	100%	-	0%	0%	100%	0%	-	0%	-	0%	0%	0%

請負工事による
変動大
現場仮設材
養生シート・土のう類他
(施工必要材)

請負工事による
変動大

再生不能紙くず
繊維くず
小型破碎ごみ
分別不能ごみ
大型土のうくず
損傷・汚損 養生シート類
その他

平成26年度の産業廃棄物発生量 計画(見込・目標)

項目	総数量 t	特別管理廃棄物を除く	コンクリートから	アスファルトから	その他がれき類	ガラス・陶磁器くず	廃プラスチック類	金属くず	汚泥	紙くず	木くず	繊維くず	石こうボード類	混合廃棄物	石綿含有産業廃棄物
26年度目標量	973.0	973.0	200.0	700.0	10.0	1.0	10.0	1.0	20.0	1.0	20.0	0.0	2.0	8.0	0.0
前年比増減(見込)	-223.4	-221.9	-37.8	-33.3	10.0	0.8	-25.9	-6.5	-0.5	1.0	-92.1	0.0	-8.9	-28.7	-1.5
増減率(マイナス:減)	-19%	-19%	-16%	-5%	-	※	-72%	-	※	0%	-82%	0%	※	-78%	0%
今後の取組及び傾向			近年実績による予定	近年実績による予定	見込	見込	近年実績による予定	近年実績による予定	近年実績による予定	有効利用に努力し減量する	近年実績による予定	見込	近年実績による予定	分別に努力し減量する	近年実績による予定

現場養生材指定増加傾向

※受注工事数・工種により変動が生じる。

道路維持工事
事あり